



北区医療介護サポートセンター キタールさんからのおたより

NO. 10

発行者：北区医療介護サポートセンター

〒651-1243 神戸市北区山田町下谷上字池ノ内4-1箕谷会館2F

Tel:078-583-3299 Fax:078-583-3298

Eメール:kita-zaitaku1-c1@siren.ocn.jp

キタールさん：令和6年度神戸市北区キャラクター使用承認 第6号



神戸市北消防署
消防防災課 救急係長
藤田 房幹

★箕谷会館ご案内★

箕谷会館は

1階が

北部休日急病診療所

2階には

北区医師会

北区歯科医師会

北区薬剤師会

が入っています。

北区医療介護サポート
センターは2階です。

アクセス

箕谷インター近く。

スーパーマルハチ箕谷
店南向かいです。

神鉄箕谷駅から徒歩6

分。駐車場あり。



神戸市北消防署 消防防災課 藤田救急係長にインタビュー



～ご本人の意思を最大限に尊重した質の高い救急活動に向けて～

消防局では、全ての心肺停止状態の傷病者に対して救命のための心肺蘇生を行うことを救急活動の基本方針としてきました。

しかし、救急活動を行う中で、119番通報して救急車を呼んだものの、心肺蘇生を望まない方が一定数以上いらっしゃいます。近年、高齢化等を背景に尊厳死の概念が広まり、癌の末期や老衰などのため、本人や家族が救急現場において心肺蘇生を望まないという意思を示されるケースが増えていたためだと考えられます。

ご本人の意思を尊重した救急活動を目指すため、当局では医師や弁護士等の有識者で構成される神戸市メディカルコントロール検討委員会において慎重な検討が重ねられ、令和5年4月1日から、新たな救急活動の運用を始めています。

その運用とは、救急隊が出動した現場において、傷病者本人が心肺蘇生を望まない意思を書面又は家族等からの情報提供により確認でき、かかりつけの医師等から心肺蘇生を中止するように指示を受けたときには、救急隊はその意思を尊重した活動を行うというものです。

ただし、前提として、人生の最終段階にある傷病者本人が、家族や身近な人、医師等と将来の医療及びケアについて事前に話し合い(ACP「人生会議」)、心肺蘇生の処置を望まないという本人の意思表示(DNAR)を医師が確認しておく必要があります。

人生の最終段階において、どのような医療やケアを望むのか、地域包括ケアの枠組みの中で、本人・家族・身近な人、医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス(ACP)には、傷病者ご本人やご家族を支える多職種との連携が必須です。

多職種連携の構成員の皆様におかれましては、ご本人の意思を可能な限り尊重できるよう、救急活動へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

神戸市北消防署 消防防災課
救急係長 藤田 房幹

★医療介護サポートセンターへの相談状況★

令和6年4月から令和7年2月末までに寄せられた相談件数は163件でした。特に在宅医療や訪問診療に関する相談、介護施設およびレスパイト入院に関する相談が多く寄せられています。些細なことでも構いません。一人で悩まず、一緒に考えるお手伝いをさせていただければと思います。なお、医療介護サポートセンターの相談窓口は医療介護従事者専用のため、一般市民からの相談は受け付けておりません。

★活動報告★

★★チーム有馬郡について★★

北区の一部（北神地区）と三田市、西宮市の一部はかつて有馬郡に属していました。有馬郡は明治12年に行政区画として発足しましたが、昭和26年頃に神戸市に編入され、消滅しました。現在、これらの地域は3つの行政区に属していますが、共通の生活圏域を利用して過ごしています。3市間の在宅医療・介護連携のシームレス化を目指すため、「チーム有馬郡」と称し、3市が共同で地域課題の抽出や研修交流会の企画を行うようになりました。行政区を跨ぐことで、それぞれの認識の違いや、お互いの医療介護資源を共有できるよう、顔の見える関係作りの構築に取り組んでいます。

★★チーム有馬郡の研修交流会のようす★★

チーム有馬郡では、お互いの医療介護資源を共有するため、2回に分けて研修交流会「地域の医療機関の役割・機能を知ろう」を実施しました。各病院や医療介護事業所が展示ブースを出展し、それぞれの特性をアピールしていただきました。名刺交換も活発に行われ、チーム有馬郡の顔の見える関係作りを推進することができました。



* 交流している様子 *

共通の課題であるACP（アドバンス・ケア・プランニング）推進のため、「高齢者住まい看取り研修」を地域住民の方も招待して開催しました。VRを活用し、望まない救急医療の体験や、本人の意思に沿った看取り現場を体験しました。VRを使うことで、よりリアルな体験ができ、視聴後には涙を流される方も多くいらっしゃいました。



* VRの機械 *



* VRの体験中 *

★今後の予定★

今後の予定は医療介護サポートセンターのホームページに掲載しています！

ホームページ：<https://kobe-iks.net/area/kita>

ホームページをチェックして、ぜひ研修にご参加ください。

ホームページ
二次元コード

